

速硬化性弾性FRP防水材

タフシール防水工法

TOUGH SEAL

優れた耐水性、耐候性を発揮。
建造物を水から守り、快適な生活を実現します。

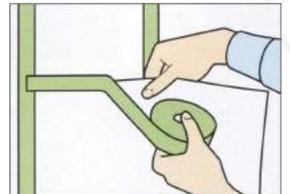
peint ぺいんとわーくす
http://www.paint-works.net

《FRP防水仕上げ(1Ply工法)》

1 下地素材(コンクリート・モルタル)表面に形成されるレイタンス(遊離アルカリ)エフロレッセンス(白華)、ホコリ、等は、ポリッシャー等で完全に除去し、油分など付着物は、洗浄除去し、十分に乾燥させて下さい。
(気温5℃以下湿度85%以上や天候の悪い場合の塗装は避けて下さい)

※新設コンクリート、モルタル面は打設後約40日間以上の養生期間をとってpH9.5以下として下さい。

2 塗料が着いては困る所はテープやマスキングで養生して下さい。



3 【下塗り】
タフシールプライマーをよくかき混ぜ、うすめずに塗装します。細かい箇所は刷毛などで塗装し、全体をローラーで塗ります。



4 【乾燥】【中塗り】
4時間(23℃)以上乾燥させます。(48時間以内に次工程へ)
タフシール#50をよく混ぜてください。



5 タフシール100に対してパーメックを約1~2%割合で配合し均一になるように攪拌機でよくかき混ぜます。
※1度に使い切る量だけパーメックを混合して直ちに使用下さい。



6 FRPローラーで塗りのばします。(0.4kg/m²)
(パーメック配合後直ちに使い切ってください。)



7 3時間以上24時間以内(23℃)にもう一度タフシール50にパーメックを1~2%混合しFRPローラーで塗りのばします。(0.8kg/m²)
(パーメック配合後直ちに使い切ってください。)



8 タフシール#50施工直後に乾かないうちにガラスマットを空気が入らずシワにならないように立上がり面から貼り広げて下さい。



9 3時間以上24時間以内(23℃)にタフシール50にパーメックを1~2%混合しFRPローラーでガラスマットに含ませます。(0.8kg/m²)
(パーメック配合後直ちに使い切ってください。)



10 【脱気】
脱泡ローラーでガラスマットの空気抜きをします。



11 3時間以上24時間以内にタフシール50にトナーを5%パーメック1~2%混合しFRPローラーで塗りのばします。(0.8kg/m²)
(パーメック配合後直ちに使い切ってください。)



12 乾燥後ペーパーやサンダー等で研磨し、防水層表面を整えます。
粉塵を除去し清掃します。



13 【上塗り】
タフシールトップ1000をよく混ぜてください。



14 タフシールトップ1000を100%に対してパーメックを約1~2%配合し均一になるよう攪拌機でよくかき混ぜます。
※1度に使い切る量だけパーメックを混合し直ちに使用下さい。



15 ローラーで塗ります。(パーメック配合後速やかに使い切ってください。)
12~24時間以上(23℃)乾燥させます。(トップが完全に乾く前に養生を取り除いてください。)



※パーメックの混合はその都度行なって下さい。特に気温25℃以上の場合にはご注意ください。硬化が急激に早まります。
※気温の高い場合(25℃以上)は、タフシールトップ1000が乾燥不良となり表面にタックが残ってしまう可能性があります。ブルーシートなどで日陰をつくり直射日光を表面温度が急激に上がらないように乾燥させて下さい。
※パーメックを入れすぎると加熱し爆発的に燃焼する恐れがありますので取扱いには十分にご注意下さい。

Internet Paint Shoppe 塗料専門店直営の通販サイト
peint ぺいんとわーくす 建物館
http://www.paint-works.net/tatemono/

- 気温、躯体および塗料の温度が、5℃以下30℃以上、湿度85%以上の場合、また降雨、降雪、強風時および天候不良となる恐れがあるときには塗装を避けてください。
- コンクリート、モルタル面の表面に形成されるレイタンス(遊離アルカリ)、エフロレッセンス(白華)、砂、ホコリ、ゴミ、等は密着不良の原因となる為、ワイヤー付きポリッシャー等で完全に除去して下さい。
- 新設のコンクリート、モルタル面は、打設後約40日間以上の養生期間をとってpH9.5以下になってから施工して下さい。
- 降雨後は、下地が水分を含んでいる為、2日以上十分に乾燥させて下さい。
- 溶剤蒸気やスプレーダストを吸引しないように、有機ガス用の防毒マスクなど適切な保護具を着用し、皮膚に触れないようにし必要に応じて保護めがね、保護手袋長袖作業着を着用して下さい。
- 直接皮膚に触れないように注意してください。もし触れた場合、ウエス等で十分に拭き取り、中性洗剤で洗ってください。眼に入った場合は、大量の水で洗い、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 良くフタをし子供の手の届かない一定の場所を定めて、空気中の湿気と反応しますので、空気が入らないように密栓し冷暗所に保管して下さい。容器は中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- 製品安全データシートをよく読んで取扱ってください。
- 下地補強板について
 - ① 構造用合板についてはJAS品をご使用ください。(野地板9mm以上、断熱材100mm以下、補強材9mm以上)
 - ② ケイ酸カルシウム板についてはJIS、不燃認定品をご使用ください。(野地板9mm以上、断熱材100mm以下、補強材9mm以上)
 - ③ 木製：支持部材が木製の場合、一般製材、構造用製材(JAS品)、下地用製材(JAS品)で、断面寸法が30×30mm以上のものをご使用ください。
 - ④ 鋼材：支持部材が鋼製の場合は以下のものをご使用ください。
 - 一般構造用軽鋼材(JIS品)、一般構造用軽鋼H形鋼(JIS品)、一般構造用圧延鋼材(JIS品)、溶接構造用圧延鋼材(JIS品)
 - 建築構造用圧延鋼材(JIS品)のどれかをご使用ください。断面寸法 H型……………100×50×5.0×7.0mm以上
 - 軽鋼H型……………100×60×2.3×4.5mm以上 重量H型……………60×60×10×2.3×3mm以上 リップ溝型……………60×30×10×1.6mm以上
 - 溝型……………70×40×5.0×7.0mm以上 軽鋼溝型……………60×30×30×1.6mm以上または、40×40×40×3.2mm以上
- ⑤ コンクリート系：鉄筋コンクリート、プレキャストコンクリート、厚さ：50mm以上
- 下地がコンクリート、モルタルの場合はコンクリート型砕ムラ、大きな巣穴などはポリマーセメントなどで補修し、平滑な面にして下さい。
- 下地として構造用合板、ケイ酸カルシウム板を使用する際は、しっかり突き合わせた上で貼り合わせ、ネジで30cm以下の間隔で固定し、たわみや動き、段差などが無いことを確認して下さい。また、継ぎ目はツーバイテープなどで適切な処理を行って下さい。※大きなムーブメントが予測される箇所はツーバイテープで処理後にガラスマットの増し貼りを行って下さい。
- 水勾配を正確にとり、水たまりが絶対に出来ないようにして下さい。ベランダ、ルーフバルコニー、屋根などの下地勾配については1/100以上とし、排水口に支障がないようにして下さい。
- プライマーと上塗り塗料は絶対に混合しないでください。また、はけ、ローラーなどの共用も避けてください。
- 主剤と硬化剤配合後は、速やかに使い切ってください。特に気温の高い場合(25℃以上)はご注意ください。
- 気温の高い場合(25℃以上)は、上塗り(トップコート)が乾燥不良となり表面にタックが残ってしまう可能性があります。特に夏場はブルーシートなどで日陰をつくり直射日光を表面温度が急激に上がらないように乾燥させて下さい。外気温が25℃以上の場合、タフシール#50の施工最終工程でタフシール#50ワックスを1%添加して下さい。
- タフシールトップを施工する際、外気温が15℃以下の場合には、必ず硬化剤を2~2.5%以上添加して下さい。
- 脱気盤、脱気筒の取り付けは、目地の交差して位置に設置して下さい。
- シーリング処理を行う場合は、防水層の端部など露出する部分にて変性シリコンシーリング材を使用して下さい。下地処理剤などにはノンブリードタイプのウレタンシーリング材を使用して下さい。
- タフシール速乾プライマーは降雨に曝されたり、施工間隔が開きすぎたり(6時間以上)した場合、タフシールとの付着性が弱くなります。降雨に曝されないようにし、施工間隔は厳守して下さい。
- 火気のあるところでは、絶対に使用しないで下さい。
- 保管は必ず蓋をし直射日光の当たらない高温にならない場所に保管して下さい。
- ガラスマットの繊維は直接皮膚に触れるとかぶれる恐れがありますので、必ず手袋、マスク等の保護具をして作業して下さい。
- 加熱、衝撃などにより、爆発的に燃焼する恐れがありますので、取扱いには十分にご注意下さい。
- 塗装条件、環境などにより、塗膜の本来の耐久性が十分に発揮されない場合があります。